「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」フォローアップ調査

有限会社渡辺体験牧場
【北海道弟子屈町】

鞍掛（くらかけ）山麓千枚田保存会
【愛知県新城市】

特定非営利活動法人　五ヶ瀬自然学校
【宮崎県五ヶ瀬町】

令和７年３月

農林水産省農村振興局農村計画課

趣　旨

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信することを通じて他地域への普遍化を図る取組です。

　このフォローアップ調査は「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」に選定された効果を選定から５年後に調査を行い、その結果を発信するものです。

　今回は第６回（令和元年度）選定地区の活動状況を掲載します。調査により、選定後に新たな活動の拡大などが見られた19地区については個別に取組事例を作成しましたので、地域活性化等に向けた取組の参考としていただければ幸いです。

調査内容

○調査対象

・選定後５年経過した地区（令和６年度においては、第６回（令和元年度）選定地区（全36地区の一覧はP2に整理））が対象。

○調査方法

・各地方農政局等（北海道については農村振興局）が、①活動状況、②現在の主な活動内容※、③具体的な活動内容、④課題、⑤選定以降の新たな取組展開、を第６回選定地区から聞き取り整理。

※「農業」、「林業」、「水産業」、「６次産業化」、「輸出」、「スマート農林水産業」、「都市農業」、「企業との連携」、「農泊」、「農村文化体験」、「ジビエ」、「棚田保全」、「地産地消」、「伝統の継承」「荒廃農地対策」、「鳥獣被害防止」、「雇用」、「移住・定住」、「復興」、「環境保全（農林水産業・食品産業）」、「農村環境・景観保全」、「教育機関との連携」、「農福連携」、「食育・教育」、「高齢者の活躍」、「女性の活躍」、「学生・若者の活躍」、「地域のスマート化」、「多様な分野（スポーツ、芸術、健康医療、再生可能エネルギー等）との連携」、「関係人口の創出」、「食料安全保障強化」の中から３つまで複数選択可。

・このうち、選定後に新たな活動の拡大などが見られた地区について、ヒアリング等を実施し個別事例として整理。

目　次

- 第６回（令和元年度）選定地区の主な活動状況・・・・・・・・・・・・１Ｐ
- 第６回（令和元年度）選定地区一覧（日本地図）・・・・・・・・・・・２Ｐ
- 新たな活動が見られた地区の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・３～21P

第6回（令和元年度）選定地区の主な活動状況

活動状況

○　選定から5年後も全36地区のうち、35地区はおおむね活動を継続し、1地区は企業形態を変えて活動を行っている。また、19区において、特に売上の増加、地域イベント、加工食品の開発数の増加など、新たな活動の拡大などが確認された。

※P3～P.20に19地区の個別事例を掲載。

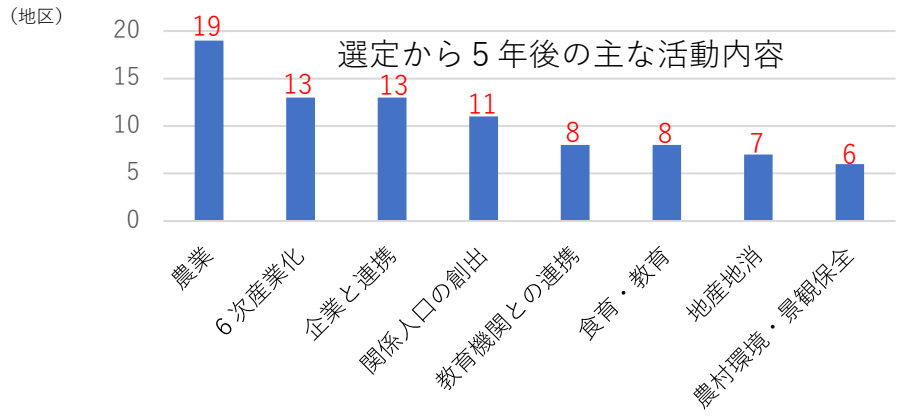
天然わかめの需要拡大による、販路の拡大
（株式会社魚の屋）

棚田キャンプや虫取りイベントなど様々な取組を実施
（すみやま棚田守る会）

肉味噌を使用し、羊の顔を肉まんの表面に表した「羊肉まん」
（北海道立遠別農業高等学校）

選定から5年後（令和6年度）の主な活動内容

○　農業、6次産業化、企業と連携が多く取り組まれているほか、コロナ渦が収まったことにより関係人口創出や食育・教育、地産地消、農村環境・景観保全といいった地域全体を活性化させる取組が見られた。



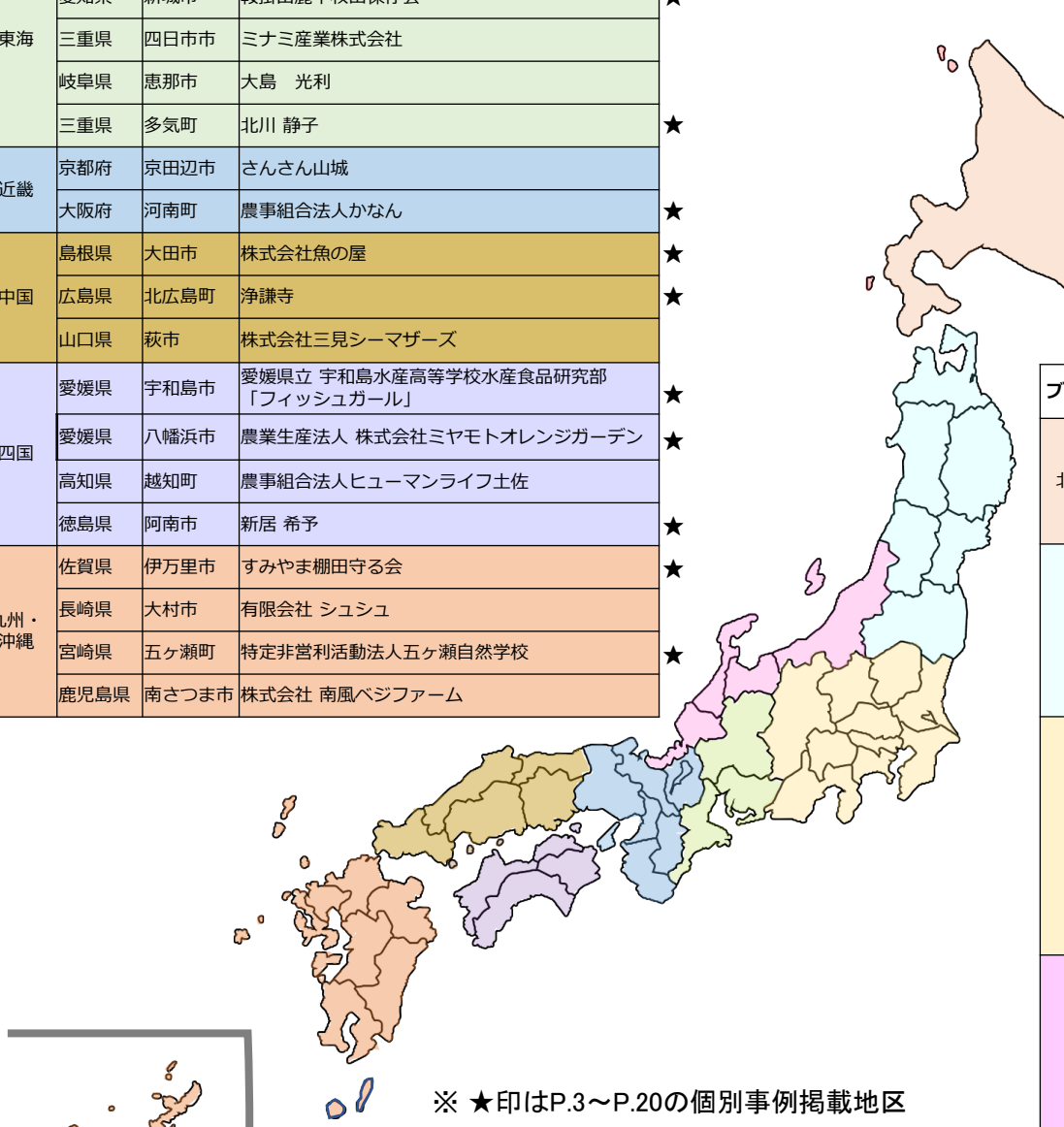
かなんのみかんぽんず
（６次産業化）

荒廃茶園を管理再生した茶畑（農業）

県外の大学生等のボランティア（関係人口創出）

第6回（令和元年度）選定地区一覧（日本地図）

ブロック	都道府県	市町村	団体名	
東海	愛知県	西尾市	西尾南部ベイエリア協議会	
	愛知県	新城市	鞍掛山麓千枚田保存会	★
	三重県	四日市市	ミナミ産業株式会社	
	岐阜県	恵那市	大島　光利	
	三重県	多気町	北川 静子	★
近畿	京都府	京田辺市	さんさん山城	
	大阪府	河南町	農事組合法人かなん	★
中国	島根県	大田市	株式会社魚の屋	★
	広島県	北広島町	浄謙寺	★
	山口県	萩市	株式会社三見シーマザーズ	
四国	愛媛県	宇和島市	愛媛県立 宇和島水産高等学校水産食品研究部「フィッシュガール」	★
	愛媛県	八幡浜市	農業生産法人 株式会社ミヤモトオレンジガーデン	★
	高知県	越知町	農事組合法人ヒューマンライフ土佐	
	徳島県	阿南市	新居 希予	★
九州・沖縄	佐賀県	伊万里市	すみやま棚田守る会	★
	長崎県	大村市	有限会社 シュシュ	
	宮崎県	五ヶ瀬町	特定非営利活動法人五ヶ瀬自然学校	★
	鹿児島県	南さつま市	株式会社 南風ベジファーム	



※ ★印はP.3～P.20の個別事例掲載地区

ブロック	都道府県	市町村	団体名	
北海道	北海道	遠別町	北海道立遠別農業高等学校	★
	北海道	津軽町	株式会社山上木工	★
	北海道	弟子屈町	有限会社渡辺体験牧場	★
東北	宮崎県	登米市	有限会社伊豆沼農産	★
	山形県	上山市	上山市温泉クアオルト協議会	
	山形県	天童市	株式会社やまがたさくらんぼファーム	★
	山形県	河北町	河北町元泉地域農地・水・環境保全組織運営委員会	
関東	茨城県	常陸大宮市	JA常陸奥久慈枝物部会	
	群馬県	川場村	冨士山集落活性化協議会	
	埼玉県	熊谷市	TATA GREEN株式会社	
	東京都	渋谷区	東京ＮＥＯ－ＦＡＲＭＥＲＳ！	★
	静岡県	島田市	杉本製茶株式会社	★
	東京都	檜原村	髙橋　亨	
北陸	新潟県	上越市	株式会社岩の原葡萄園	
	石川県	白山市	石川県立翠星高等学校食品科学研究会	
	石川県	津幡町	河北潟干拓土地改良区	
	福井県	小浜市	株式会社若狭の恵	★
	石川県	能登町	上乗 秀雄	★

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

北海道立遠別農業高等学校【北海道遠別町】

選定年：R1年
（準グランプリ受賞）

概　要

〇高校生が、国産自給率の低いサフォーク種の羊の飼育・加工・販売までを一貫して実施。
〇地域農業者からの要望により、地域農業者や役場も参加する協議会を設立し、地域の課題に対して高校での実践結果を地域に還元する取組を開始。

選定年（R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇羊（サフォーク種）の飼育から加工に関する専門部会の取り組みとして、羊の飼育から加工・販売に至る実習を実践。
〇校内で栽培している作物は、全て「有機JAS」認定。
〇校舎敷地内で年数回開催している「えんのうマルシェ」にて、農産物・羊肉加工品・草花等の販売。
〇オーストラリアへの海外研修
〇ネット通販サイトにて、羊肉加工品の販売

羊（サフォーク種）　校内飼育の様子

遠別農業高校の農産物・加工品

選定直後の状況

〇新聞に7回掲載
〇情報誌「広報えんべつ」に情報が掲載

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

〇本校で飼育しているサフォーク種の「北海道サフォーク種羊共進会（士別市）」への出品
〇管内の4Hクラブと連携したラム肉を活用した肉味噌の開発
〇肉味噌を使用し、羊の顔を肉まんの表面に表した「羊肉まん」の開発及びマルシェやイベントでの販売
〇韓国への農業視察研修（3年生）
〇町内農業者と連携したドローンによるもち米の直播栽培試験の実施
〇ASIAGAPの維持・更新
（もち米、ジャガイモ、たまねぎ）
〇有機JAS認証の取得
（たまねぎ）
〇遠別町と連携したふるさと納税返礼品への提供
（もち米、メロン、たまねぎ）
〇「えんのうマルシェ」の開催による実習生産物の販売実習の実施

サフォーク種羊共進会への出品の様子

新たに開発した「羊肉まん」

出荷に向けたメロンの選果の様子

今後の展開方向

〇今後も、持続可能な農産物の生産や地域振興につながる商品開発に向け、地域の農業者や産業界の方と連携しながら、現在の取組について改善を図りながら実施

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

株式会社山上木工【北海道津別町】

選定年：R1年
（準グランプリ受賞）

概　要

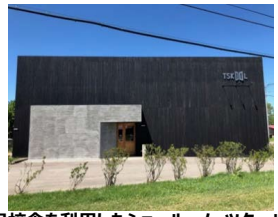
〇機械力と職人技の融合により、高品質な木工品を安定的かつ効率的に生産し、国内外で販売。
〇地元の廃校の校舎を利用したTSKOOL（家具のショールーム）を運営。
〇自社ブランドのISU-WORKSの取扱店舗を国内外に展開。

選定年（ R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇機械力と職人技の融合により、高品質な家具や建具などの木工品を安定的に効率良く生産。
〇自社ブランド「ISU-WORKS」を設立し、デザインと機能性を備えた椅子を国内71店舗で販売、海外6カ国へ製品も輸出している。
〇廃校を利用したショールーム「TSKOOL」を開設。
〇東京2020オリンピック・パラリンピックのメダルケース製作。

自社ブランド 椅子 ISU-WORKS


旧校舎を利用したショールーム ツクール

選定直後の状況

〇複数の業界団体の講演会や学校教育機関の講演を行った。

〇官邸で当時の安倍総理が自社の椅子に座った写真により、PRと共に国内外に向けて会社の信頼度が上がった。

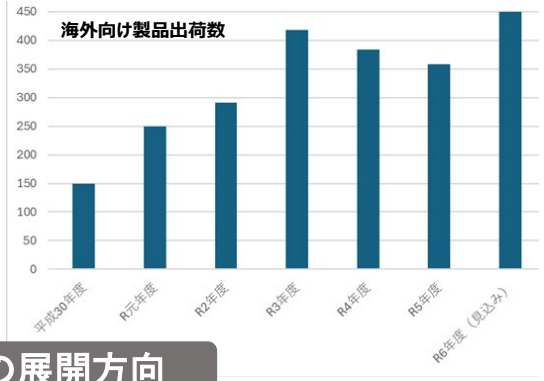
木工品による温かみのある店内

高い技術を生む「機械力」と「職人力」

現在（ R6年）の状況及び今後の方向

現在の活動状況

〇企業・団体の見学や小学校～大学まで多くの学生も来店し取り組みの視察を受け入れている。
〇当初国内60店舗、海外2カ国であったが、現在は 全国71店舗、海外6カ国（香港・フランス・シンガポール・台湾・カナダ・タイ）を展開をしている。
〇高齢世代のスタッフの定年退職による新世代を受け入れる採用活動を実施している。



今後の展開方向

〇田舎から世界にチャレンジ、力強く発信・発展できる会社として、さらなる挑戦を行っている。
〇若い人材を積極的に採用し地元とともに成長をしようと取り組んでいる。
〇近隣の同業木工会社をM＆Aを行いさらなる事業を拡大。地域になくてはならない家具メーカーを目指している。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

有限会社渡辺（わたなべ）体験牧場【北海道弟子屈（てしかがちょう）町】

選定年：R1年

概　要

〇120頭の乳牛を持ち75haの草地を所有している牧場で、その傍ら牧場体験を運営。
〇乳処理業、乳製品製造業などを行い、飲食店も運営。牧場の可能性を最大限に引き出す。
〇SDGs、持続可能な牧場の取り組みの視察として修学旅行や自治体研修、県議会、市議会、町議会等を受け入れている。

選定年（R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇ゲストハウスの建設をきっかけに体験ツアーに取組み、酪農教育ファーム体験ツアーを実施し、中国の雑誌とHPで取り上げられたことをきっかけに、外国人のインバウンドも増加。

〇牧場の牛乳を利用した加工品の開発・販売。

体験ツアーに訪れる人々

牧場の牛乳を利用した製品

選定直後の状況

〇新聞に15回以上掲載。
〇役場などでにおいて2回講演。
〇選定後に視察団体が6回訪問
〇SNSやYouTubeによる情報発信を行って おり、牧場の魅力を広く告知。

北海道新聞（2024）

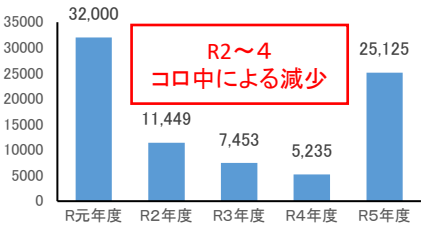
わたぼくちゃんねる（YouTube）

現在（R6年）の状況及び今後の方向

現在の活動状況

〇体験牧場のゲストハウスの改築を行い、高付加価値の客層を迎えて高収益化に取り組んでいる。
〇町内のホテルやチーズ工房など地産地消を目指して取引協力を図っている。
〇渡辺牧場の牛乳から作った化粧水（ミルクのしずく オールインワンスキンローション、牛乳石鹸）の開発。

牛乳より作られた化粧水



来場、体験者数（人）

今後の展開方向

〇牛乳工場のオートメーション化など、デジタル化の向上を図っていきたい。
〇牧場の牛乳を利用した加工品、新製品の開発。
〇地元経済、観光の発展に寄与する。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

有限会社 伊豆沼（いずぬま）農産【宮城県登米（とめ）市】

選定年：R1年

概　要

〇指定農家で育てられた宮城県産豚と地域食材を活用した加工施設やレストラン、直売所を開設し、創業時より6次産業化に取り組む。
〇移住した女性社員が取締役となり、地域の高齢者を牽引し、食文化や農業について学ぶ体験プログラムを開発。

選定年（ R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇1988年、宮城県産豚と地域食材を活用した食肉加工所とレストランを開設。2000年、現在地に移転し、直売所を新規開設する。創業当時5名だった従業員は現在は35名となり、新規雇用を創出することができた。
〇地域資源活用のコーディネーター「食農体験ソムリエ」の認定施設として、定期的に育成研修会を開催。これまでに約100名をソムリエ認定し、体験プログラムの普及に取り組んでいる。
〇2017年、食農体験ネットワーク登米協議会を設立。インバウンド受入を見据えた農泊セミナーの開催、在日外国人を対象としたモニターツアーを実施した。

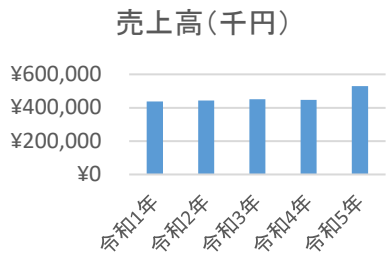
選定直後の状況

〇新型コロナウイルス感染症の影響により、誘客事業が一時休止となったが、2023年に再開。
〇2021年地産地消等優良活動表彰　食品産業部門　農林水産大臣賞受賞
〇2023年東北ニュービジネス大賞受賞
〇2023ポケマルチャレンジャーアワード最優秀賞
〇2020年以降　52回以上メディアに掲載
〇食農体験ソムリエ研修の受講希望者が増加。
〇選定実績を活用した販売促進活動を進めていくことが出来た。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

〇海外エージェント、近隣市町村と連携したコンテンツ造成を開始。アメリカ、中国、台湾など、教育旅行を中心とした受入が増加。
〇2024年度、空き家を活用した宿泊施設を開業予定。



今後の展開方向

〇「むらを元気にする！」を基本コンセプトに、地域住民が主役となった農泊・インバウンド交流モデルを実現したい。
将来的には、ビジネスモデルの成功パターンを見出だし、類似の課題を持つ地域にノウハウ を提供する。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

株式会社　やまがたさくらんぼファーム【山形県天童（てんどう）市】

選定年：R1年

概　要

〇果樹の生産・販売・観光・加工・飲食の5本の柱で持続可能な農業経営を目指しています。
〇直販にこだわり、くだもの狩り、ショップ、自販機、通販、カフェなどさまざまな販売チャネルをつくっています。

選定年（R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇地域の温泉と連携し「朝摘みさくらんぼツアー」を商品化。また、地域協議会、旅行会社と連携し農作業体験ツアーを実施。

〇地域の加工業者やデザイナーと連携し、さくらんぼなどを使用した加工品を開発し、直売所とカフェを開設。

Oh!show!cafeのパフェ

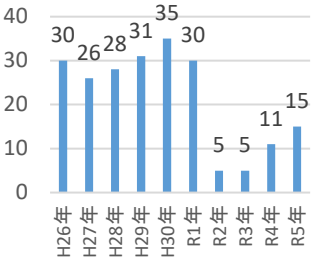
選定直後の状況

〇令和2年にはコロナの影響でフルーツ狩りの入園者数が6分の1に激減したが、通販に注力して過去最高の売り上げを達成。

〇新聞に30回以上掲載。

〇山形県内テレビ5局で報道され、NHK「サラメシ」でも紹介された。

〇視察団体が20回以上訪問。



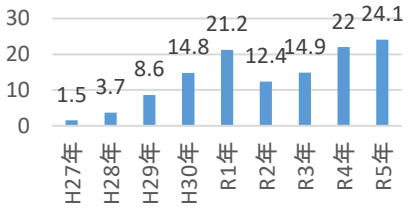
入園者数の推移(千人単位)

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

〇カフェの売り上げが16倍になり令和5年はフルーツパフェを23,000杯販売。(6次産業化)
〇障がい者を新たに2名(合計3名)加えたことで作業の細分化が実現し、健常者はよりクリエイティブな仕事ができるようになった。(農副連携)
〇7台の草刈ロボットを稼働させて作業の効率化を図っている。(スマート農業)
〇自販機を6機種14台設置して、夜間や閉園期間の販売機会ロスを減らした。

席数を増やした２階ラウンジとテラス席



カフェ売上金額の推移(百万円単位)

今後の展開方向

〇令和6年に定めたSDGs宣言への取り組みを積極的に推進し、持続可能な農業経営を目指す。

〇果樹園×教育で子どもたちを中心に果物の事を深く知ってもらう機会を作り熱いファンを増やす。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

東京NEO-FARMERS！　【東京都渋谷区】

選定年：R1年

概　要

〇東京都内で新規就農した者等が、安心・安全で高品質の地元野菜を都市住民に販売。
〇都内や周辺地域で就農予定の者と情報交換を行い、就農に向けた助言や受け入れ先の調整など円滑に就農できる環境を整備。

選定年（R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇マルシェを定期的に開催し、野菜の出荷等で連携する大手スーパーやレストランチェーンは3社から10社へと販路を拡大

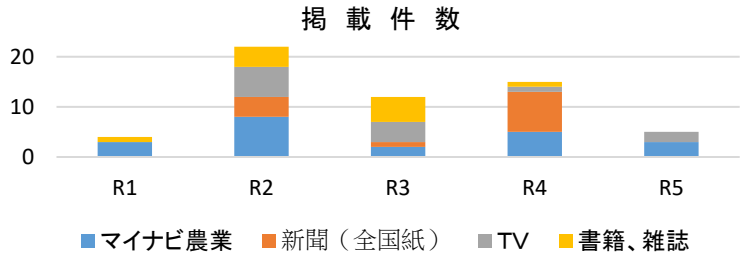
東京NEO－FARMERS！のマルシェ

〇新規就農会員数は、19名から44名に増加し、会員間で意見交換を行う場を提供。

カフェ
レストラン
との商品
開発

選定直後の状況

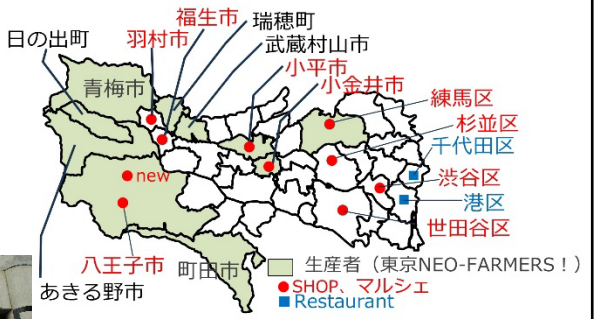
〇都内で新規就農したメンバーがTV、新聞、雑誌に掲載

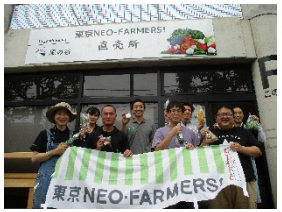


現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

〇新規就農会員が44名から68名に増加。農業参入した就労継続支援A型事業所と新規就農者グループとの共同運営による常設の農産物直売所を全国で初めて開設。令和6年には移動販売も開始。





共同農産物直売所オープン

今後の展開方向

〇青梅市、相模原市に生まれた2チームと共に引き続き都内各所で安心・安全で高品質の地元野菜を物流会社等と提携し都内で販売するとともに新規就農の取組を発信支援していく。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

杉本製茶株式会社（すぎもとせいちゃ）　【静岡島田市（しまだ）】

選定年：R1年
（準グランプリ受賞）

概　要

〇茶生産農家の所得向上及び後継者確保のため、国内の中小製茶企業に先駆け、輸出事業に着手
〇海外展示会への出展や、輸出向けの施設整備を実施。

選定年（R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇現地法人設立後、海外の茶関連展示会へ出展し、販路開拓を行った結果、現在では22ヶ国へ輸出を行い、茶・抹茶輸出売上高は6倍に増加。
〇有機抹茶製造工場を新設し、抹茶の製造能力が1．5倍に増強。
〇地元高校生による欧米の茶流通研究の支援を行う。

World Tea Expo2017出展

地元高校生への研修協力

選定直後の状況

〇選定後、茶輸出に関連した講演を依頼された。

〇他市町村からの視察が増えた。

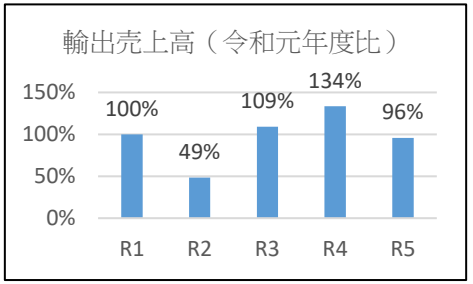
視察風景

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

〇コロナ禍の落ち込みはあったが、輸出先は、22ヶ国から26ヶ国に拡大し輸出売上高はコロナ以前と同レベルに復調。
〇浜松有機茶推進協議会を発足し、20年来、有機茶に取組む浜松市春野地区の荒廃茶園を管理再生し有機茶のブランド地区とする取組を開始。

浜松市春野地区の茶畑



今後の展開方向

〇春野地区生産者、輸出業者との共同会社を設立し、浜松市、JETROの助言指導を仰ぎながら有機茶輸出を行い、春野地区のブランド化、更なる売上向上を目指す。
〇有機茶葉の買い取りは適正価格で行い生産者の所得を下支えするとともに、地域の後継世代農家に対しては所得向上の一助として有機茶参入を勧奨する。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

株式会社若狭の恵（わかさ めぐみ）【福井県小浜（おばま）市】

選定年：R1年

概　要

○景観作物のひまわりを緑肥とした米の開発・直販に加え、中山間地域で、新たな販路開拓やスマート農業など若者が魅力を感じる農業を展開。
○地域の雇用創出のため、営農サポーター制度を実施。地域の若者とベテランが協力する体制を構築。

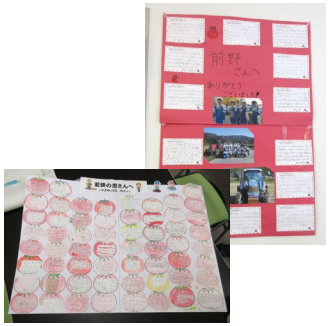
選定年（R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

○米の売上高は、約7,300万円から約1.1億円へ増加（H26→H30）。

○社員7名はすべて40歳代以下。役員等含む正規雇用者数は3人から11人に拡大（H27→H30）。

○営農サポーター制度による地域の高齢者等の雇用者数は、H30年度には延べ約1,500人。



地元の小学生からの農業体験等への御礼の数々

○地元小学校の農業体験・見学等の受入を行う。

○R1年度からスマート農業実証実験に参加。

選定直後の状況

○ディスカバー農山漁村の受賞の報告に市長を訪問。その様子が新聞にも掲載された。農業関係者には受賞について反応をいただくこともある。

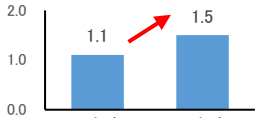
○ひまわりを緑肥として栽培した「ひまわり米」に注目が集まり、新たな販売先と契約を締結できた。

事務所内に飾られた表彰式の写真等

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

○米の売上高、6次産業化（商品開発）による売上高はともに、受賞当時（R1）から増加。



米の売上高（単位：億円）

○営農サポーター制度による雇用者は、約1,800人程度まで増加。雇用者が増えたこ とで、農繁期でも正社員に固定の休日をとらせることが可能になった。

○R1年よりスマート農業実証事業に取り組んでいる。スマート農機の活用、生産管理・行程をデジタル化することで、労働環境の改善に成功。

受賞当時からラベルを刷新した自社の甘酒、トマトジュース

○従来の米～麦～ひまわりの2年3作から、米（早生品種）→ひまわり（8月播種）→枯れたひまわりを緑肥としてすきこみ田植えを行う1年2作に切り替え、休閑期をなくすことで効率的に「ひまわり米」を栽培することに成功。

（株）若狭の恵さんで栽培している「ひまわり畑」

今後の展開方向

○今後は、耕地面積を維持しつつ、いまある資源を最大限効率化したい。
主に、育苗・ 乾燥施設等は稼働率に余裕があるため、今後は受注委託を増やしていく予定。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

上乗　秀雄【石川県能登町】

選定年：R1年
（個人賞受賞）

概　要

〇故郷の里山を再開発して子どもたちが自然体験や環境学習ができる場を創ろうと、自然体験村「ケロンの小さな村」を創設。
〇ビオトープやツリーハウスを整備するなどして子供達への自然体験を行うほか、自家生産の米を米粉にしてパンやピザを販売するなど6次産業化にも取り組み、大人の来客も取り込み地域に賑わいをもたらす。

選定年（R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇自然体験村「ケロンの小さな村」における自然体験や環境学習、自家製産の米粉や野菜を使ったピザ作り体験などでの子どもの来村者数は年間4,000人。 大人も合わせると5,000人（H30）。地域の活性化にも貢献。

〇自らの取組を絵本にして出版。小学校等での読み聞かせ会や原画展の参加者は年間2，000人（H30）。

里山内に設置された旗

選定直後の状況

〇受賞後、町長や金融機関に報告の表敬訪問を行い、今後の活動について激励があった。

〇ディスカバーのロゴマークがはいったのぼり旗を里山内に配置。地域の利用者から反応をいただくこともある。

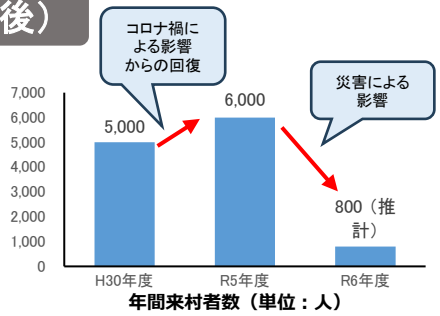
施設内に飾られた表彰状等

〇地域の広報誌に地域活性化の事例として取り上げてもらったこともあり、総務省の「令和4年度ふるさとづくり大賞」に推薦され、個人表彰を受賞。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

〇R6年1月の能登半島地震により崩壊した橋や施設等の修復を最優先に行っている。少しでも早い復旧と、コロナ禍以前を上回る来村者と売り上げを目指している。



年間来村者数（単位：人）

〇孫が後継者になったことで、事業承継のために収益化について考えるように。災害からの復興と収益化の二本柱で活動を行う予定。

被災した施設

〇災害ボランティア団体から譲り受けたキッチンカーでイベント等に参加し、自家製産の米粉パン等を販売。

米粉パン等を販売するキッチンカー

今後の展開方向

〇里山内に宿泊施設を建設し、宿泊部門での利益化を目指す。
〇里山内に農業ハウスを建設し、水耕栽培にも挑戦。
〇直売所兼休憩所を設置し、米粉パン等の売り上げアップを目指す。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

鞍掛山麓千枚田保存会【愛知県新城市】

選定年：R1年

概　要

〇棚田の保全活動、棚田米を原料とした「千枚田五平餅」の販売、小中学生を対象とした「千枚田絵画コンクール」、地元小学児童への稲作体験を実施。
〇自然豊かな景観と生物多様性に富んでおり、世界各国の農学研究者の視察受け入れ等、外国との交流にも取り組む。

選定年（R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇H22年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の誘致に貢献。

〇COP10開催を機に、ベトナム、中国など海外から中山間地の米作りに関する農業視察が増加。

地元小学校の野外学習

〇地域の教育機関と連携した農業体験学習や、企業と連携した社員研修・ボランティア活動を積極的に受け入れ。

〇収入確保のため、千枚田で生産した米を株式会社丸八製菓（愛知県豊橋市）へ出荷し、「千枚田五平餅」を製品化。

千枚田五平餅

選定直後の状況

〇選定後2年間で、新聞掲載2回、テレビ放映6回。

〇小学生向け道徳の教科書「明るい心」へ全6ページにわたり掲載。

〇新型コロナウイルス感染症がまん延すると訪問者は急激に増え、休日は約2,000人が訪れた。

現在の状況及び今後の方向

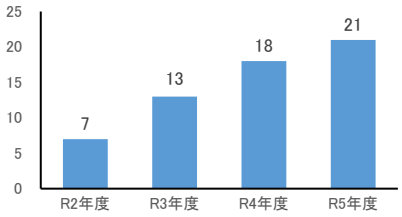
現在の活動状況（5年後）

〇都市近郊の住民が会員となり、約25名（団体）で水稲の栽培や保全活動を行っている。令和4年に「四谷の千枚田」として「つなぐ棚田遺産」に選定されたことで、千枚田の保存継承に参画する企業が増加。

〇千枚田では都市住民との交流イベントとして農道沿いに1,500本のロウソクを灯す「お田植え感謝の夕べ」、アマチュアミュージシャンによる天空のコンサート、餅つき、イノシシ汁の提供を行う「収穫感謝祭」等、様々なイベントを開催し、年間約2万人が訪れている。

〇世界各国の農学研究者等が視察に訪れており、国際協力機構（JICA）の現地見学会も実施されている。

「お田植え感謝の夕べ」の様子



棚田でのイベント開催回数（単位：回）

今後の展開方向

〇高齢化が進み、地元の地権者だけで耕作・保全を行うことが難しくなっているため、都市近郊から来る人々等と協力し、景観と自然環境を守っていく。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

北川（きたがわ）　静子（しずこ）【三重県多気町（たきちょう）】

選定年：R1年

概　要

〇地元農産物を活用した農家レストラン、加工所を運営。
〇農村の歴史・文化で地域を盛り上げ、次世代へ継承していくため、地域全体を巻き込んだ農村体験・イベントを実施。

選定年（R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇高齢化や後継者不足の中、農村で生まれる産物・豊かな文化・お年寄りの持つ技術を活かそうと地元女性と共に有限会社を設立。

〇農家レストラン、加工所などで地元農産物を使用した料理や商品を生産するほか、大豆などを使った料理体験などを通じ、農村の文化や技術を継承。

〇売上の6割を地域に還元する「コミュニティビジネス、地域貢献・地域密着型事業」を展開し、地域の団体と協力して地域活性化に貢献。

地域内外の児童への食育の様子

地域全体を巻き込んだイベントの様子

選定直後の状況

〇選定年1年間で、新聞掲載4回、雑誌掲載1回。

〇選定後に視察団体が3回訪問。

地元の保育園児・小学生・高校生と
共同開発した「豆サブレ」

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

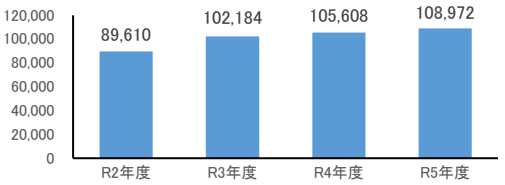
〇高齢化と後継者不足により廃業した地域内の老舗こうじ屋と和菓子屋の味、技術を継承。

〇生産者の高齢化により食材の入手が難しくなっていたことから、新たに農業部門を立ち上げ、農作物の栽培にも取り組んでいる。

〇選定後5年間で、新聞掲載17回、雑誌掲載9回、テレビ放映3回、視察受入11回。

技術継承したこうじを使った味噌

農業部門で実施した収穫体験の様子



農家レストラン「せいわの里まめや」の売上（単位：千円）

今後の展開方向

〇引き続き農村の文化や技術を継承していく。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

農事組合法人かなん　【大阪府河南町（かなんちょう）】

選定年：R元年

現在の取組概要

〇町内学校給食センターや幼稚園、福祉施設等への農産物や味噌の納入や、町内小学校も5年生に食農授業を実施。
〇地場産農産物を使用したお餅、惣菜、米粉パン、ジャム、味噌等の加工品を開発し、販売。

選定年（R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇町内の小学校5年生に対し農業の現状や野菜の栽培・出荷について出前講座や小中学校の社会見学、農業体験自習などの受け入れを行う等食農教育に積極的に取り組む。

〇リニューアルで設置した調理室を活用し、H30年度より親子等を対象として、道の駅かなんで販売している農産物を使った料理教室を開催（H30：5回、延べ71名参加）

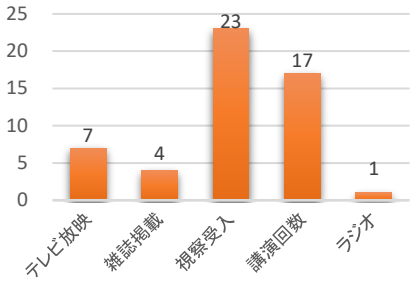
〇大阪府独自の伝統野菜「なにわの伝統野菜」の栽培・出荷販売にいち早く取り組み、直売所で買えるとして大阪府内の飲食店等で利用される。地方創生加速交付金を活用し、大阪市立大学と連携し、特産である浪速の伝統野菜の栄養等の研究を行った。

選定直後の状況

〇R2年、R3年テレビ放映合計回数7件

〇R2年からR4年視察受け入れ合計回数16件

〇R3年に放映された「発見食遺産」にて、なにわの伝統野菜「勝間南瓜」がクローズアップされ、番組内で当直売所の農家の作ったレシピが食遺産に認定。



【情報発信の取組】

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

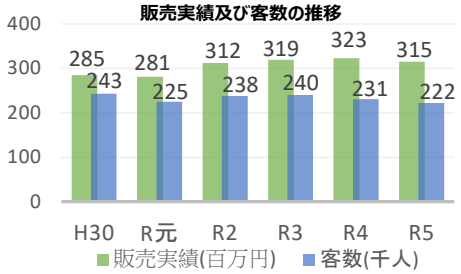
〇温州みかんを使用した「かなんのみかんぽんず」や、米粉を使用した米粉のそうめんやスパゲッティを販売。また、野菜を活かす為のカレーベースの新商品開発を行っている。
〇近隣農家のいちご狩りの受付や、ふるさと納税の返礼品として、いちごを活用している。
〇大阪市内の百貨店及び町内のスーパーにおいて、道の駅コーナーでの販売を行っている。

富田林青年会議所と共催：食農体験

いちご狩り

かなんのみかんぽんず

近鉄百貨店にて道の駅ブース



今後の展開方向

〇地場産農産物を活用した商品の開発、喫茶スペースで季節に応じた商品提供、調理室兼会議室を利用した料理教室や食農教育、加工施設を活用した商品開発や製造委託など、道の駅に足を運んでいただく機会を増やして販売実績に繋げる。
〇さらに新規農業者の獲得・育成を目的とした取組も視野に入れている。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

株式会社　魚の屋（うおのや）【島根県大田市（おおだ）】

選定年：R1年
（グランプリ）

現在の取組概要

○島根県産天然わかめを中心に扱い漁業者の所得向上、隠岐諸島を中心とした離島振興。新たな産地（島根町）が加わり、原料供給や商品生産を拡大。これまでの販路に加えてドン・キホーテ、紀ノ国屋、久世福商店等に販売を拡大。
○温暖化によるわかめの葉と茎の割合の変化に対応して商品構成を変更（スープ類の割合を増加）。

選定年（R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

○新商品の開発販売
　国内市場に1%しか出回っていなかった天然わかめを使用したスープやカットわかめ等の新商品を開発・販売。需要を拡大してわかめ漁を復活させた。

天然わかめの商品

○漁師の所得向上
　海岸で漁師が刈り取った天然わかめを買い取っている。漁期の3月～5月末まででこの間の漁師の所得は午前中の操業だけで平均43万円/月になり、年金受給者に特に喜ばれ生きがいとなる。

刈り取られた天然わかめ

○農福連携による所得向上・地域の見守り
　わかめを葉と茎に分ける処理を13か所の障がい者施設に委託し、施設の加工賃の受託単価を通常の約2倍に設定している。また、社内では一人暮らしの高齢者24人にマイペースでの作業をお願いしており、安否確認にもつながっている。

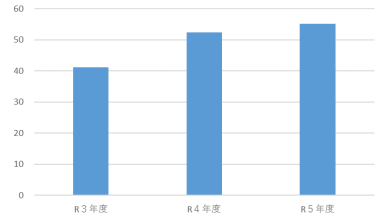
選定直後の状況

○新型コロナウイルス感染症拡大に見舞われたが、スーパーを中心に商品を展開していたため、巣籠り消費が伸びて売上は増えた。
○地球温暖化の影響と考えられる、わかめの葉と茎の割合の変化を考慮し、商品をスープ中心に変化させた。
○グランプリ受賞を関係者が喜んでくれたが、中でも漁師が一番喜んでくれてモチベーションが上がった。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

○漁師の人数も150～200名ほどにまで増え、漁師からの購入金額は選定当時の3千万円/年から1億5千万円/年に。高齢者や障害者の安定した雇用の場は縮小しつつも維持。
○これまでの販路に加えてドン・キホーテ、紀ノ国屋、久世福商店等に販路を拡大。
○温暖化によるわかめの葉と茎の割合の変化に対応して商品構成を変更（スープ類の割合を増加）。
○天然わかめの商品（最中スープ）が2023年ジャパン・フード・セレクション第64回金賞を受賞。



天然わかめ商品売上推移（単位：千万円）

刈り取りから帰ってきた漁師

今後の展開方向

○引き続き「漁師が主役」という考えで事業に取り組む。
○島根県はわかめの産地としては新しいため、定着を図る。県産の他の農産物と組み合わせた商品を開発・販売する。
○生産地として離島を抱えており、高騰する燃料・資材費に対応するため商品への価格転嫁が急務。消費者や小売業者のニーズにあった商品開発を行い、あわせて適正価格での販売を目指す。
○需要や取引する加工施設の動向に応じて産地を開拓する。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

浄謙寺（じょうけんじ）【広島県北広島町（きたひろしまちょう）】

選定年：R1年

現在の取組概要

〇地場産物を使った新鮮で美しい料理をイタリアン精進料理や説法を通して身も心も癒される体験を提供。
〇広島県原産のごきねぶり小豆を使った最中を町内の和菓子店と協力して開発・製造。
〇広島アンデルセンと連携して野菜以外にも芸北の食材を取り入れた食事会(四季ごとの会のうち「夏」の会担当)を開催。

選定年（R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇食文化・仏教文化の継承
　食を通じ伝統的な仏教文化や日本食文化に触れる機会となるよう、読経や説法などの体験とともにイタリアン精進料理を採用。

法話

〇地産地消の取組
　料理はスタッフの家庭菜園や近隣農家から仕入れた地元の新鮮な朝採れ野菜等を使用。
〇地域住民の協力
　地域に住む定年後や退職後の再雇用者が多く地域の雇用創出に貢献。料理の仕事を通じ新たな才能を開花させるなど自己実現の場として機能。自ら栽培し調理した野菜についてお客様と会話が生まれ、情熱が伝わり感動を与えている。参加者からは身も心も癒されたと好評で約半数がリピーター。

二の膳　野菜盛り

〇インターンの受け入れ
　精進料理の調理や配膳、農作業を1週間～2週間の期間で受け入れている。大学生を中心に寺の宿坊に泊まり込みで働いてもらっている。

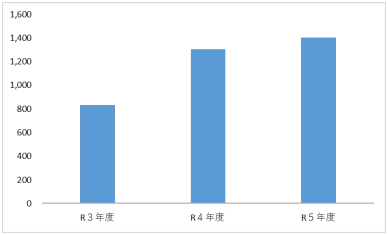
選定直後の状況

〇コロナ禍も隔月営業
　コロナ禍においては個人客の利用はほとんどなくなったが地元旅行会社によるバスツアーは継続され営業を続けられた。それによりスタッフの雇用を続けられ、メンバーは変わっていない。
〇ごきねぶり小豆を使用した和菓子の開発・販売
　2020年に地域の和菓子屋と共同で広島県在来種の希少なごきねぶり小豆を使用した最中を開発・販売。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

〇地場野菜をはじめ瀬戸内レモン等の広島野菜も取り入れたイタリアン精進料理を提供。受け入れ人数を増やしている。
〇広島県原産のごきねぶり小豆を使った「ごきねぶり最中」を町内の和菓子店と協力して製造。百貨店等に販売。潜在的需要は多く、お中元やお歳暮に人気。
〇広島アンデルセンと連携して食事会を開催。
〇料理教室や出張料理にも着手。



イタリアン精進料理の来客数推移（単位：人）

抹茶体験

今後の展開方向

〇少人数限定のコースや、出張料理の充実を検討。
〇旅行会社とイタリアン精進料理に加え地域の自然で遊べるような体験を交えたウェルネスツアーを企画し、インバウンド対応も計画。
〇野菜だけでなくジビエや川魚、牛乳といった芸北の食材を使い芸北の食材を知ってもらう機会を作る。また、宿坊に注力し、泊まれるお寺レストランを目指す。
〇地域の方と協力しながらごきねぶり小豆の作付け、収穫の安定化を図る。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

愛媛県立宇和島水産高等学校 水産食品研究部「フィッシュガール」【愛媛県宇和島市】

選定年：R1年

現在の取組概要

○生徒主体のマグロの解体ショーで愛育フィッシュ（愛媛で愛情込めて育てた魚）を全国でPR。５年度からの愛媛県海外販路開拓企業連携体という輸出協同体にも加わり、アメリカやアジア等の海外でも開催。
○自治体や企業の依頼を受け商品の開発(監修)や、県内外の高校とコラボし生産する農産物や県産「媛スマ」を使用した商品を開発。
※ 「媛スマ」は愛媛県産の養殖スマの総称。天然のものは漁獲が少ないため、お店に並ぶことがほとんどなく「幻の高級魚」と言われる希少な魚。

選定年（ R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

○マグロの解体ショー
　国内外の百貨店やイベント等で、体よりも大きなマグロを解体。加えて販促のMCトーク（養殖マグロや愛媛の水産業に関する解説）も全て「生徒自ら」行う。集客力の高い取組。
　実施店舗への調査結果では、96%で集客増、89%で売上増の効果。

ハワイでの解体ショー

○製品開発
　「ブリ大根缶詰」、「鯛めしの素缶詰」など様々な製品を開発・販売しており、大日本水産会のHACCPを取得し、FDAに施設登録等行った。国内初となる「高校の施設で製造した加工食品の対米輸出」を行った。
○産官学の連携
　地元の水産会社が高い技術で魚を育成し、愛媛県が百貨店等との催事の折衝を行い、フィッシュガールがマグロ解体ショーを通じ様々な愛育フィッシュのPR販売を担う。産官学が連携して国内外の消費者に愛媛の養殖技術の高さや美味しさを伝える。

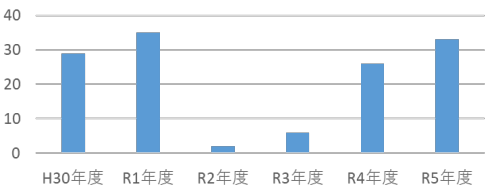
選定直後の状況

○コロナ禍で、集客目的のマグロの解体ショーは一時少なくなったが、県や漁協等の協力を得て実施。技術は生徒同士の教えあいにより受け継いでいる。
○コロナ禍を転機とし、校内製造が主だった商品開発を、地域の協力企業が製造・販売する商品の開発(監修)の取り組み始めた。
　リモート会議を重ねて「はもごはん」「なめとこにじますアヒージョ」の商品を開発。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

○生徒主体のマグロの解体ショーで愛育フィッシュを全国でPR。愛媛県海外販路開拓企業連携体という輸出協同体に昨年度から参加したり、JETROとの関りもできたりしたことで、アメリカやアジア等の海外で地元の食品をPRする機会にも積極的に参加。
○自治体や企業の依頼を受け商品の開発(監修)や、県内外の高校とコラボし生産する農産物や県産「媛スマ」を使用した商品を開発。
○県の愛育フィッシュのPRや販売促進、地元水産事業者や販売店の売上・集客増、将来を担う人材確保など、産官学3者がWinWinWinの関係を構築。10人ほどだった部員も20人と倍増。



マグロの解体ショー（国内）（単位：回）

監修した商品の販売促進

今後の展開方向

○集客力が高く注目を集めるPR活動であるマグロ解体ショーを引き続き実施。
○商品の開発製造では、首都圏に広める目的でレシピを開発中。缶詰だけでなく冷凍食品、ベーカリー、総菜のレシピ作りも行う予定。自校で製造する缶詰はいずれEUへの輸出を考えている。
○地域に誇りや愛着を持つ若者、アントレプレナーシップ（起業家精神）を育み、地域貢献できる人材の育成を目指す。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

農業生産法人 株式会社ミヤモトオレンジガーデン【愛媛県八幡浜市】

選定年：R1年

現在の取組概要

〇グローバルGAPを継続更新し柑橘を生産。「GAP認証取得支援システム」を愛媛県農業大学校、県内外の農業高校や農家に提供。
〇令和5年に「農業用ドローンによる柑橘園での農薬自動散布体制」を国内で初めて確立。普及も兼ねドローンスクールを開校。
〇柑橘の加工品を量産、全国各地で販売。6次産業化のみならず、1次＋1次＋2次＋3次の7次産業化による商品開発にも挑戦。

選定年（R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇グローバルGAPとASIAGAPによる柑橘栽培と高付加価値販売
みかん・かんきつ類は4.5haの園地全てでグローバルGAP及びASIA GAP認証を取得。大手量販店や百貨店等と継続的な取引関係を構築。
〇「GAP認証取得支援システム」の開発とGAP普及
生産者が使いやすく、より安価に取得可能な「GAP認証取得支援システム」を開発。県内の農業高校・農業大学校に提供しグローバルGAP取得に貢献。セミナーでの講演やGAP経営研究会の開催。
〇調味料「塩みかん」の加工販売
栽培時に今まで廃棄していた摘果みかんを「塩みかん」として加工することで有効活用。百貨店での販売、ファーストクラス機内食での採用、農業白書掲載等、付加価値が向上。

開発・販売された数々の商品

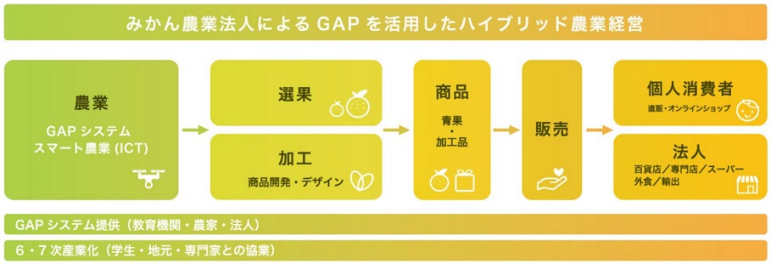
選定直後の状況

〇新商品「塩みかん寒天ゼリー」「さわやか旬果ゼリー・伊予柑」「塩みかんマリネの素」をリリース。
〇愛媛県産品の付加価値を高め販売するため、東京第一ホテル松山、株式会社愛南サン・フィッシュ、県立八幡浜高校など地元の企業や学校等とパートナーシップ協定を締結。
〇みかん・柑橘類の香港への輸出開始。
〇媛小春で県内最大規模の生産量を実現。
〇令和2年度6次産業化アワードで食料産業局長賞と学生応援賞をW受賞。令和3年度中国四国地域未来につながる持続可能な農業推進コンクールGAP部門で中国四国農政局長賞を受賞。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

〇グローバルGAPは継続して更新中。「GAP認証取得支援システム」を愛媛県農業大学校や県内外の農業高校、農家に提供。
〇農業ドローンでは柑橘類では初めて自動飛行による農薬散布技術を確立。ドローンスクールも開校し、ドローン操作や農薬散布技術をを普及。
〇自社内で加工場を立ち上げ加工品の自家生産を推め、柑橘の加工品を量産、全国の百貨店や高級スーパーで販売。
6次産業化のみならず、1次＋1次＋2次＋3次の7次産業化による商品開発にも挑戦。



農業生産法人 株式会社ミヤモトオレンジガーデン の経営の姿

今後の展開方向

〇現在の事業を継続しながら、企業理念である「革新的な農業経営で最良のウェルビーイングを追求し、たくさんの喜びと新しい価値を創造する」ことの実現を目指す。
〇「グローバルGAPの推進」「アグリテック（先進の機械・技術）の活用」で持続可能な農業に挑戦し、「地元食材と地元関係者との連携による商品開発」で、みかんの新しい価値を創造する。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

新居　希予【徳島県阿南市】

選定年：R1年

現在の取組概要

〇伝統米の栽培や阿波晩茶の生産、地域農産物を利用した6次産業化により伝統食材の継承・復活・研究に取り組む。
〇コロナ禍で止めていた食育体験を再開。食育たより等を通じた学校の食育のサポートや、YouTube等のSNSによる情報発信。
〇食育カードゲーム作成や大学や高等専門学校など新たな分野と連携など新たな取組(研究や教育の支援)を開始。

選定年（R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇伝統の継承
　伝統黒米　弥生紫を独自に栽培し、「100年前の米 徳ばん」を復活。生産者が激減し耕作放棄されていた茶畑を復活させ阿波晩茶の生産を開始。その他、お米と麦のみで作る甘味料「米飴」の生産や「徳ばんで作る昔の甘酒」の復活など、途絶えかけていた食材の継承・復活・研究を実施。

子ども達との田植え

〇教育機関との連携
　保育園、幼稚園20校と連携。龍谷大学の農業体験の場を提供。
〇食育・教育
　伝統食材の提供や、定木を使う昔ながらの田植えや石包丁を使った稲刈りなどの農業体験。生産者が書く毎月の食育たよりの発行等を行い学校の食育をサポート。
〇広報活動
　行政、テレビ・ラジオ放送局、農林水産業に携わる企業と連携し、生産現場を知っているからこそ伝えられる農林水産物の情報を発信。また、メディアの番組コーナーや情報発信を企画・監修。

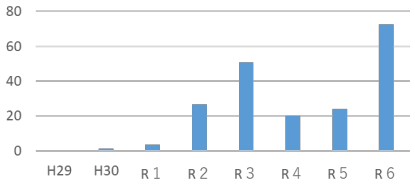
選定直後の状況

〇令和元年に参加者が1,500人まで増えた食育体験は、コロナ禍に見舞われ、2～4年度は実施ができなかった。
〇しかしながら、食育たよりの発行数を増やし、YouTubeによるリアルな農業、伝統米の栽培、阿波晩茶の生産、農業、作物、生産者の紹介等の動画の配信を増やすなどコロナ禍に応じた情報発信に努めた。
〇在来茶葉を使用した阿波晩茶の生産を開始。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

〇耕作放棄地の活用や地域の伝統を伝える農産物や農産加工品の生産を行うことにより、途絶えかけている食材を継承・復活・研究。
〇コロナ禍で止めていた保育園・幼稚園への食育体験を再開。令和5年に食農教育協会を設立し、なかがわ野菊の里でそれまで培った農業分野と食と教育を組み合わせたカリキュラムによる活動を開始。
〇食育たよりの発行部数が増加。YouTube等SNSによる情報発信。
〇令和6年に食農教育ゲームを作成。生産者の日常をカードゲームにし、子供達が生産者の労苦や喜びを体験でき、生産者は作物の販売促進にも活用できる。
〇令和2年から大学の阿波晩茶の研究に協力。さらに、有識者の協力を得て「阿波晩茶保存研究チーム」を発足し代表を務める。



YouTube再生回数（単位：万回）

阿波晩茶を作っている時

今後の展開方向

〇伝統食材の継承・復活・研究、食育体験などの活動を引き続き実施。
〇耕作放棄地のさらなる再生に取り組み、阿波晩茶の生産者を増やし、在来茶葉による阿波晩茶の生産量を増やす。
〇阿波晩茶保存研究チームや、食育教育協会における活動を推進。
〇紙媒体・テレビ、ラジオ、新聞、YouTube、各種SNSを活用した情報発信で伝統的な食材のファンをつくる。伝統食材クリエイターの活動を拡大。農業と食材に関する執筆の開始。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

すみやま棚田守る会【佐賀県伊万里（いまり）市】

選定年：R1年

概　要

〇過疎化などにより荒廃した棚田を整備し、田んぼや畑を身近に感じる、農のある暮らしを「田んぼテーマパーク」という形で実現。
〇学生、企業、地域住民が連携し、様々な取組を実施することで、交流人口の増加に寄与。

選定年（ R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇荒廃した棚田を8年がかりで整備し、景観やオーナー制度による田植え及び収穫体験を実施。
〇CATV・地元酒造会社と連携し「純米吟醸すみやま」を製造販売。ふるさと納税の返礼品に選定されるとともに、仏の日本酒品評会で金賞受賞。
〇大学と連携した棚田での農業体験をテーマとした研究や水力発電によるイルミネーションなど、多様な者と連携した取組を実施。

棚田保全活動で田植え体験

水力発電を活用したイルミネーション

選定直後の状況

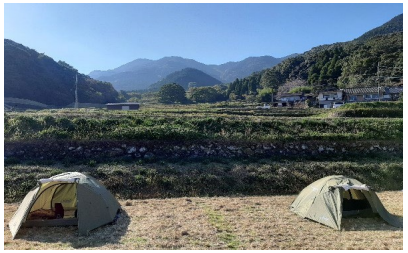
〇佐賀県知事に選定を報告後、県が作る冊子で取組が紹介され、同じく選定を報告した伊万里市長からは「持続可能な地域モデルになる」と評価をいただく。
〇西日本新聞社から取材を受け、選定に関する記事が紙面に掲載。
〇県内外から10件の視察を受入れ。

佐賀県の冊子で選定された取組を紹介

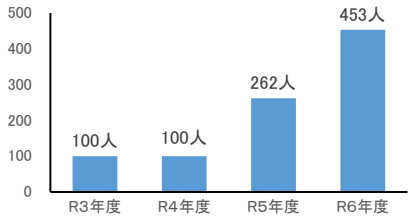
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

〇選定後、すみやま棚田守る会を支援するための任意団体「すみやま農らいふ」が設立され、3企業・3団体が設立会員として参画。また、イベントへの参加や運営、SNSで応援をする一般会員・学生会員・賛助会員には45名以上が登録している。
〇連携する企業や団体、支援者が増えたことで、これまでの棚田保全や田植え体験に加え、棚田キャンプや虫取りイベントなど様々な取組を実施。
〇令和5年度は棚田でのイベントを6回開催し、延べ262人が参加。令和6年度は9回のイベントを開催し、参加者数は延べ453人となった。



稲わらと田んぼの土でクッション性抜群



イベントへの参加者数の推移（単位：人）

今後の展開方向

〇日本各地の棚田地域と同様に高齢化が進み、担い手不足が深刻になっているが、炭山の棚田にある豊かな自然と田んぼをそのまま使って、子どもから大人までが楽しめる場、様々な人が交流する場を提供していくことで、魅力ある地域づくりに取り組む。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

特定非営利活動法人　五ヶ瀬自然学校【宮崎県五ヶ瀬町】

選定年：R1年

概　要

〇地元の自然や資源などを最大限に活かして、農林業、エコツーリズム等を合わせた取組を行い地域を活性化。
〇集落ボランティアセンターでは、世界農業遺産の高千穂郷・椎葉山地域の集落支援や全国各地の災害支援も実施。

選定年（R1年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇季節に応じて子供を対象にした自然体験のイベントを多数開催。青少年の健全育成のための自然を活かした環境教育にも注力。
〇地元農家の生産する米をブランド化し、付加価値をつけて販売することで、地元農家の所得向上に貢献。

川遊びイベント

ブランド米「四億年前の大地」

選定直後の状況

〇選定以降、地域での取組が評価され、「日蔭棚田」及び「鳥の巣棚田」が第2回「つなぐ棚田遺産」に選定。棚田振興に貢献した団体として感謝状の贈呈を受けた。

日蔭棚田の全景

鳥の巣棚田の全景

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

〇地元の学校と連携し、定期的に集落ボランティアへ参加をしてもらい、県外の大学生等のボランティアも受け入れる。
〇串間市のNPO法人との連携では、海の厄介者オニヒトデを駆除し、堆肥化。その堆肥を使って玉ねぎ、大豆を栽培。玉ねぎは「鬼オン」というブランド名で販売。
〇子供を対象とした自然体験イベントについては、県内外から毎回定員を超える申し込みがあり、常にキャンセル待ちの状態。令和6年度は三年ぶりに五ヶ瀬町のスキー場がオープンすることもあり、スキー教室には多くの参加希望者が見込まれる。

大学生のボランティアと鳥の巣棚田でのトウモロコシ栽培の様子

日蔭棚田での大豆の種蒔きの様子

今後の展開方向

〇ここ数年で、高齢により離農する農家が増えてきており、耕作放棄地対策が急務となっている。対策の一つとして、自然農法（菌ちゃん農法）に新たに取り組んでおり、地域の高齢者と若者が一緒に生きがいを持って生活できる地域作りに取り組む。